

令和7年度 第3回 生駒市行政改革推進委員会第二部会 調査結果

開催日時 令和8年3月10日(火) 午後1時～午後5時

調査場所 高山竹林園、花のまちづくりセンターふろーらむ、あすかの介護予防拠点施設

出席者

(委員) 森委員長、松山委員

(担当課) 坂本施設マネジメント課課長補佐、明石施設マネジメント課ファシリティマネジメント推進室ファシリティマネジメント推進係長

(施設所管課) 荒木商工観光課観光振興室室長、南商工観光課観光振興室観光係長
巽みどり公園課長、楠下みどり公園課課長補佐、柴田花のまちづくりセンター
主査
齊藤地域包括ケア推進課課長補佐

欠席者

(委員) 林委員、中西委員

1. 経緯

現在諮問を行っている公共施設等総合管理計画及び個別施設計画の改定にあたり、令和7年度第5回生駒市行政改革推進委員会において、施設の調査とヒアリングが必要との意見があったことから、1月から3月にかけて二部会に分けて調査を行うこととなった。

第二部会の委員により、3回目の調査として高山竹林園、花のまちづくりセンターふろーらむ、あすかの介護予防拠点施設の3施設で調査を行った。

2. 調査概要

1) 高山竹林園

委員により、施設の現地調査を行った。
また、施設職員より聞き取りを行った。

2) 花のまちづくりセンターふろーらむ

委員により、施設の現地調査を行った。
また、施設職員より聞き取りを行った。

3) あすかの介護予防拠点施設

委員により、施設の現地調査を行った。

3. まとめ

上記調査後に、市役所 302 会議室において、高山竹林園の所管課である商工観光課観光振興室、花のまちづくりセンターふろーらむの所管課であるみどり公園課、あすかの介護予防拠点施設の主管課である地域包括ケア推進課の職員も交え、当日調査のまとめと質疑を行った。

主な内容は以下のとおり。

1) 高山竹林園

- ・指定管理者はどのように決めているのか。
 - 非公募。いくつか竹製品や茶釜にかかわる団体があり、今回、奈良県高山茶釜生産協同組合から提案があった。

- ・利用者数についてはどうか。
 - コロナ禍で下がったものの、世界的な抹茶ブームということもあり近年利用者は増加傾向であり、観光プランの開発なども進めている。
 - 茶釜の販売に関しては、海外から多数の問い合わせがあり、待ってもらっている状況。また、茶釜師からも子どもに跡目を継がせるか悩んでいたが、この状況なら継がせやすくなったという話も聞く。

- ・高山竹あかりに関して、市の発案で始まったのか。年に複数回開催することも可能か。
 - 竹製品や茶釜にかかわる団体からぜひ開催したいとお声があり始めた。
 - 訪問者も多く続けていきたいと考えている。人員の問題もあり年に複数回開催することは難しい。

- ・施設の維持管理はどのようにされているのか。
 - 建物の中には、伝統的な素材や技法を使ったものもあり、修繕が難しいものもある。
 - 次年度に老朽化に係る調査を行うための予算案を議会に提出している。それに基づき適切に修繕を行っていきたい。また、海外からの注目も高まっている中で和式便器が残っているので洋式に変えていきたいという思いもある。

2) 花のまちづくりセンターふろーらむ

- ・作られた経緯についてどのようなものか。
 - 本市の目指す“花と緑と自然のまちづくり”の拠点として 2001 年に設置された。

- ・利用状況についてはどうか。
 - 貸館としての利用者数は年間延べ 2,500 人あまりだが、同じ方が複数回利用されているため実人数でいうと 200 人くらいが定期的に利用されている状況。また、ガーデンでは季節に応じて様々な花を植えているので、それを目当てに来園される方も多い。

- ・指定管理制度の導入などの検討はしたか。

→県の事業を活用しサウンディング調査を行ったが、施設規模があまり大きくなく収益性が低いことや、今後もボランティアとともに花と緑と自然の市民まちづくりの拠点とすることなどから、民間事業者の導入の可能性は厳しい状況。他の公園施設と合わせてであれば可能性はあるかもしれないため、引き続きどのような運営手法がよいか探っていきたい。

・花の専門家がいるのか。

→会計年度任用職員で専門知識を持った人がいる。ボランティアの育成、ガーデンデザイン等に携わってもらっている。

・維持管理費の削減についてどのように考えているか。また、歳入を増やす工夫はあるか。

→1年草の割合を減らし宿根草を増やすことで維持管理費を抑えるようにしている。また、大規模イベント(フェスタなど)は廃止し、日常的に花や緑に親しむ人や地域で活動する人を増やす講座の充実に力を入れている。近隣の学校や生涯学習課の進めている ischool などとの協働を行っていきたい。

立地が北地区にあるため、南地区の人にも利用してもらえよう、引き続き情報発信を行う。

3) あすかの介護予防拠点施設

・利用状況についてはどうか。

→まちかど保健室として、コグニサイズ教室、脳の若返り教室、いきいき百歳体操各教室などの各種教室を開催している。それぞれに5~20人程度の利用がある。

・民間で様々な健康教室や介護事業ができてきているので、市で持ち続ける必要があるか。

→市内全を見ればその通りだが、エリア的に民間が手薄な地域であるため必要性はあると考えている。

・2階に入っている生駒メディカルセンターについて、市が出資しているのか。

→確認します。

(※後日確認)昭和56年3月に生駒市及び生駒市医師会の出資により、財団法人として設置され、平成25年4月に一般財団法人に移行しています。令和6年4月現在での市の出資率は50%(100万円)となっています。

4. 閉会